

「2023年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学経済学部2年 岩田 恵汰朗

本プログラムに参加した動機として香港の金融機能を知りたいという動機がありました。中国本土においては法律上外国投資家の投資が制限されており香港を通じて取引が行われています。しかしシンガポールにアジアの金融として機能が奪われたという意見や本土での規制が緩和されつつあるなどの外部変化が起きておりそれがどう香港に影響をもたらしているのかを感覚的に知りたいと考えていました。そして香港に実際行ったことで感じた香港における中国資本の影響力と他国からの日本の評価について書いていきます。

一つ目は中国系金融機関の影響力の大きさを感じたことです。日本にいて中国資本の影響を表面上は感じないため中国銀行や中国交通銀行などの本土の銀行機関や HSBC や恒生銀行などの香港系金融資本など日本ではお目にかかる機会のないものにテンションが上がりました。数も多いながら中国資本は好立地に位置しています。香港島の Admiral 駅から Central 駅までは近くに証券取引所である香港交易所がある関係から銀行や証券会社のオフィスが並んでいます。取りわけ大きいのは HSBC の香港本社ビルで目の前の遮打花園には HSBC 創設初期のマネージャーで香港金融の父として香港の金融制度を整備した Thomas Jackson の像があります。一等地に自行の創設者の像を置けるのは HSBC の香港経済でのパワーを感じます。日本でいうなら岩崎彌太郎の像が丸の内や兜町にあるようなものですが実際は存在しません。日系金融資本（野村証券、三菱 UFJ など）は中心街から外れたおり香港においては存在感の薄い存在なのだと推測できました。ちなみに欧米系金融資本特にイギリス系も立地が良かったです（これは日本と同じ）。日本では撤退したシティ銀行のリテールが香港には数多く残存していました。香港では外資系銀行の中で最も利用率が高い銀行になっているそうです。またこれは紙幣を見て気づいたことなのですが香港ドルの発券銀行は三行あり HSBC、スタンダードチャータード銀行、中国銀行香港支店となります。前者二行はイギリスに本社を置いており、後者はもちろん中国資本、HSBC も中国平安保険が筆耕株主であり中国、イギリスよりの銀行が香港ドルを発行しています。香港には日銀のような中央銀行は存在せず香港政府単独では金融政策が行えない。また限定的に行える金融政策としては為替調整のみであることを知りました。金融政策においては香港ドルはアメリカドルとペッグ制を採用しており二者のレートは狭い範囲で固定され連動するように努力がされているそうです。

もう一つ感じたことは日本という国に対する客観的評価が高いということです。日本人は自国への評価が平均的に低いですが香港での日本人、日本産というステータスがポジティブに評価されていると感じました。香港で少し話した人や中文大学の学生と話した感触や日本製の商品、日本雑貨店への人の込み用や店の位置から日本ブランドというものが存在すると感じます。TOYOTA のショールームが沙田のショッピングモールの一番の好地にあり値段も日本での外車並みの価格であることもその一つです。街中では的士（タクシー）やバスは TOYOTA、トラックは SUZUKI ばかりでした。とはいえ Central など都心では自家用車は Tesla が多く自家用車を保有するのは裕福層だけだということもあり日本車=Tesla,ベンツとまではいかないそうです。また外で食事をする際飲み物をオーダーしないと日本人ならお金持ってるでしょと言われ文句を言われました。接客態度自体は問題有ですが日本人=金持ちのような意識がある気がします。地元の超市では日本製のお酒や果物がフェアで売っておりかなり高い値段で売られていました。日本食の調味料、麺類が豊富にあり、スナックはチョコ以外基本日本製で日本の相場の 1.5 倍から 2 で取引されていました。日本で中国語や韓国語がラッピングされた製品は一般人は避けますが、香港の超市で普通に日本語で書かれた日本製の食品が売っているのをみて日本の商品に対する香港消費者の信頼感を感じました。

期間中二度日本に関連するデモを見ました。一つは終戦の日の反日デモ、もう一つは処理水放出に反発するデモです。日本領事館からデモ開催の通知が来た際は本土で数年前に起きた反日運動のような大規模なものを予想

していましたが、行ってみるとデモ参加者は5人ほどで15分ほどで終わりました。彼らも言いたいこと言ってすっきりしたのか、警備員や記者と談笑をして過ごしていました。周りに朝日新聞と共同通信の記者がいて日本語で記事にするかを相談しており、ただのショーなのだと感じました。香港人は中立で偏った反日感情を抱く人はいないのだと安心しました。

自分は将来証券マンとして海外投資家へ日本株の良さを知ってもらえる仕事ができればと考えています。欧米においては日本はアジア諸国のうちの一国に過ぎず、日本企業はどうしても中国、韓国優良企業と比較されます。また日本はインドネシアやマレーシアなどASEAN諸国よりも成長性はありません。海外投資家からの注目を集めるということについては香港は中国企業とのパイプになることで成功しており日本がお手本にすべき事例の一つです。また日本企業や日本経済の安定性や実績が一つの魅力でありそれは海外特に東・東南アジアにおいては理解されやすいものだと考えるようになりました。日本の株式市場が今後盛り上げるためのヒントをこのプログラムにおいて学ぶことができ有意義な時間を過ごすことができました。